

二宮尊徳 略年表

	西暦	年号	年齢	主要事項	参考事項
	1781	天明1		のちの小田原藩主大久保忠真が生まれる	
	1783	天明3		浅間山大噴火 天明のききんが始まる	
	1784	天明4		大ききんとなる	
幸福な 幼時	1787	天明7	1	7月23日 栢山村に生まれる 金治郎と名づけられる	再び大ききん 家斉将軍となる 松平定信の改革
	1788	天明8	2		
	1789	寛政元	3		フランス大革命 アダムスミス没
一家	1790	寛政2	4	弟友吉（のち三郎左衛門）が生まれる	
苦難時代	1791	寛政3	5	8月5日 酒匂川が決壊 所有田地の大半が流出する	
	1792	寛政4	6		ロシア使節が来航 林子平が獄死する
	1793	寛政5	7		
	1794	寛政6	8		
	1795	寛政7	9		
	1796	寛政8	10	大久保忠真が小田原藩主となる	
	1797	寛政9	11	二宮総本家の当主が死んで絶家となる	イギリス船が来航
	1798	寛政10	12	父利右衛門が病み、医師村田道仙にかかる わらじ推譲の逸話	マルサス人口論 古事記伝完成
	1799	寛政11	13	松苗200本を買い酒匂川堤に備える 弟富次郎が生まれる	
	1800	寛政12	14	9月 父利右衛門が没する	
	1801	享和元	15	極貧の恥辱を痛切に味わう 年末にも迎春の用意できず	
	1802	享和2	16	母よしが没する 洪水 一家離散 伯父万兵衛方に寄食	箱館奉行を置く
一家	1803	享和3	17	菜種を収穫 捨て苗から1俵を得て積小為大の理を悟る	アメリカ船が来航
復興時代	1804	文化元	18	万兵衛方を去り 名主岡部方に出入りする 観音経の逸話	カント没
	1805	文化2	19	二宮七左衛門方に住み込む 余暇に廃田復旧・耕作を進める	
	1806	文化3	20	生家の近くに小屋を建てて住む 田地9a余を買い戻す	
	1807	文化4	21	弟富次郎が没する 米金の貸付や小作米の収納がふえる	
	1808	文化5	22	母の実家川久保家に援助する このころ俳句をたしなむ	
	1809	文化6	23	本家再興基金を設定する 田地26a余を買い戻す	ダーウィン生 リンカーン生
	1810	文化7	24	田地が1.46haとなる 江戸・伊勢・関西旅行 富士登山	

	1811文化8	25	用文章・孝経・経典余師や本箱を買い入れる 小田原藩主老 服部家の若党となり子息修学をたすける	
隣人	1812文化9	26		
救助時代	1813文化10	27		
	1814文化11	28	服部家の使用人を中心に「五常講」を試みる	伊能忠敬全国地図
	1815文化12	29	服部家から帰る 同家の家政整理・借財償還計画書を作る	ナポレオン没落
	1816文化12	30	弟常五郎（友吉）が二宮三郎左衛門の養子となる	
	1817文化14	31	2月 中島きのと結婚 田地在3.8ha余となる	
	1818文政元	32	服部家の家政整理を引き受ける 11月 藩主忠真から表彰	忠真が老中就任 マルクス生
	1819文政2	33	長男徳太郎が誕生 まもなく死亡 3月 きのと離婚する	
	1820文政3	34	4月 岡田波子と結婚 斗枘の改良 藩士の五条講創設	エンゲルス生
	1821文政4	35	桜町領の調査復命 嫡子弥太郎誕生 服部家第1回整理結了	
桜町領	1822文政5	36	小田原藩に登用（名主役格）桜町領復興を命ぜられる	
復興時代	1823文政6	37	田畑・家財を処分して桜町に移転 事業が実質的に始まる	
	1824文政7	38	長女文子（奇峰・松隣）誕生	
	1825文政8	39	関東地方凶作 横田村名主円蔵をさとす	異国船打払い令
	1826文政9	40	組徒格（くみかちかく）となる	日本外史が完成
	1827文政10	41	領民中の不平分子が騒ぐ 豊田正作が赴任 困難を増す	
	1828文政11	42	トラブル頻発 辞任願いを出したが不許可 小谷三志と交わる	
	1829文政12	43	成田山で断食静思する 帰任後は事業が円満に進行する	
	1830天保元	44	「一円にみのり正しき月夜かな」の句を作る	フランス7月革命
	1831天保2	45	忠真に報告「以德尊徳」の賞詞 桜町領第1期事業結了	ヘーゲル没
	1832天保3	46	哲理の究明を進める 天徳無尽現量鏡・地徳開倉積を作る	
	1833天保4	47	青木村の堰工事 凶作を予知して対策を講ずる	天保ききん始まる
	1834天保5	48	徒士格（かちかく）に進む 三才報徳金毛録などを著す	水野忠邦老中就任
	1835天保6	49	谷田部藩の財政再建 農村復興事業に着手する	
事業	1836天保7	50	諸国凶作 烏山藩に救急援助する 桜町領第2期事業結了	
普及時代	1837天保8	51	小田原領の飢民救済 忠真没 烏山領の復興事業に着手	大塩平八郎の乱 家慶将軍となる
	1838天保9	52	小田原領・下館領の復興事業に着手	

	1839天保10 53	富田高慶入門 小田原領内の復興気運が盛り上がる	
	1840天保11 54	小田原領内で長期実地指導 葦山の豪商多田家の借財整理開始	アヘン戦争起こる
	1841天保12 55	桜町で谷田部・下館・小田原ほか諸領諸家の指導に忙殺される	天保の改革が始まる
	1842天保13 56	幕府に登用（御普請役格） 利根川分水路測量調査	
	1843天保14 57	下館信友講・小田原報徳社創立 名乗りを尊徳と定める	水野忠邦失脚
	1844弘化元 58	日光仕法雛形の作成受命 相馬藩の長期財政基本計画を策定	
	1845弘化2 59	斎藤高行・福住正兄入門 相馬藩の農村復興事業が始まる	
試練時代	1846弘化3 60	日光仕法雛形完成 小田原藩が復興事業を突如打ち切る	
	1847弘化4 61	山内代官配下となり東郷神宮寺に仮住い 下石田報徳社創立	
	1848嘉永元 62	東郷陣屋に移転 事業着手が認められず 牛岡組報徳社創立	「共産党宣言」
	1849嘉永2 63	管内棹ヶ島村の復興事業が追認され前途がようやく開ける	
	1850嘉永3 64	管内14ヶ村に復興事業を行う 福住正兄が門を辞す	砂糖信淵没 太平天国の乱
	1851嘉永4 65	弥太郎（尊行）に御用向見習発令 斎藤高行が門を辞す	
	1852嘉永5 66	片岡村克讓社創立 墓参して残務整理 弥太郎・文子結婚	
日光領 復興時代	1853嘉永6 67	日光領復興事業受命 江戸で発病 現地踏査 文子没	ペリー来航 家定将軍となる
	1854安政元 68	尊行に御普請役見習発令 轟村復興着手 岡田良一郎入門	神奈川条約締結
	1855安政2 69	今市役所に移転 箱館奉行から開拓調査依頼 孫尊親誕生	江戸大地震
	1856安政3 70	御普請役に進む 10月20日に没する 高慶が報徳記を著わす	ハリス下田着任
	尊徳没後		
	1857安政4	尊行が御普請役となり 日光領復興 事業継続を命ぜられる	
	1858安政5	20ヶ村に大規模植林 新妻助惣・大友亀太郎ら箱館赴任	家茂将軍となる 安政の大獄
	1859安政6	領内各地の大規模荒地開発	
	1860万延元		リンカーン大統領
	1861文久元	尊行が御普請役元締格に進む	南北戦争始まる
	1862文久2	領内各地の大規模荒地開発	

1863文久3		
1864元治元	相馬藩の農村復興事業が累計101ヶ村に及ぶ	水戸天狗党の乱
1865慶応元	大規模植林 轟村復興事業終了	慶喜将軍となる
1866慶応2	凶作対策 尊行が関東公料地の開拓調査に参加 大友亀太郎札幌赴任	
1867慶応3		大政奉還
1868明治元	官軍今市進入 復興事業中止 6月 尊行が相馬中村へ移転	戊辰戦争